



HAPPY
ぼうさい
プロジェクト

ぼうさいをハッピーにする
WORK BOOK

はじめに

ここ数年来、全国各地で自然災害が発生している中、その備えとして、「防災」・「減災」にかかわる取り組みが、地方自治体や地縁組織、社会福祉協議会などがリードする形で行われているところです。

しかしながら、むしろこうした機会に全く参加し得ておらず、地縁組織等とも接点を持ち得ていない住民が多く、いざという時の備え十分とは言い難いのが実態です。また、このような“声なき声”となっている住民層（サイレント・マジョリティ、サイレント・マイノリティ）は防災・減災に限らず、地域活動や自治体の住民参加手続にも全く接点がないままであり、今後この層はますます増大するものと推測されます。

そこで、この考えを同じくする NPO3 団体で、2017 年度から 2 年にわたり、楽しさを前面に押し出した「ハッピー」な防災の取り組みを推進するために、動員型ではない多様なアプローチでの防災・減災のためのプログラム開発に取り組みました。このワークブックは、この 2 年間で得た知見を結集しています。

これまでの方法論を検証・刷新されたい関係者にご活用いただき、声なき声の層との接点を増幅させ、自助も共助も充実した地域づくりにつながれば幸いです。

WORK BOOK のつかいかた

（（ 対象 ））

「防災」の取り組みを推進する立場にある自治会等・自主防災組織・社会福祉協議会

（（ ねらい ））

- ・これまでにない切り口での防災の取り組みをすすめ、多様な住民と接点をつくる。
- ・既存の防災の取り組みに関わり得ていない住民層に近づく。
- ・既存の防災の取り組みをブラッシュアップする。

（（ つかいかた ））

- ①事例から、組織づくりやつながりづくりの両面で多様な手法があることを知る。
 - ②地域の基礎情報を見える化する。
 - ③地域活動に関わりが薄い住民層を、属性別に掘り下げる。
 - ④住民層の属性別のプログラムを企画立案し、試しにやってみる。
 - ⑤ふりかえり→改善を経て、プログラムをブラッシュアップする。
- ※集合型・動員型のプログラムにこだわることなく、さまざまな可能性を探る感覚で。

（（ つかえるシーン（例） ））

- ・集合型の研修
- ・個別地区での企画づくり
- ・地域の実態に関する調査研究活動
- ・防災・減災のための協働事業の企画づくり

INDEX

足がため ～地域をよりよく知ろう

足一1. 地域のスペックは？	4 P
足一2. 地域の防災の取り組みは？	5 P
足一3. あなたの周辺で活動している団体は？	6 P

スタートアップ ～とにかくやってみて、みがきをかけよう

スー1. 想定されている災害種別以外の災害も加味してみよう	7 P
スー2. 巻き込みたいターゲットを掘り下げよう	8 P
スー3. 地域活動の担い手と、立ち位置の確認をしよう	9 P
スー4. 企画を立てよう	13 P
スー5. PDCAをはじめよう	14 P
スー6. CA→PD にチャレンジしてみよう	15 P

先達からヒントを得よう

ケース1. 商店街等との協働による訓練（修徳児童館／京都府京都市）	16 P
ケース2. 移住者も含む平時のつながり（カフェ梅や／鳥取県湯梨浜町）	17 P
ケース3. さまざまな住民の巻き込み	
1. 森の子児童センター／沖縄県浦添市	18 P
2. 防災スペース Ema-lma／東京都葛飾区	19 P
3. 澄川地区乾燥野菜推進協議会／札幌市南区	20 P
ケース4. 在住外国人の巻き込み（外国人消防団／滋賀県草津市）	21 P
ケース5. 福祉に立脚した連携（徳島県内の社会福祉協議会）	22 P
ケース6. 多世代 × 地域ぐるみでの防災のとりくみ	23 P
（北九州市横代地区）	
ケース7. サイレントマジョリティ・サイレントマイノリティが	25 P
大多数を占める都市部における防災のとりくみ	
（那覇市若狭地区）	

おすすめノウハウあれこれ	27 P
--------------	------

足がため ～地域をよりよく知ろう

足一1. 地域のスペックは？

防災・減災といえば、行政か地縁組織（自治会等）を連想しがちですが、内容によっては、これら以外にもさまざまな人や団体、事業所がかかわる可能性があります。その内容を考えるにあたって、ひとまず改めて、地域のことを一定程度、把握しておく必要があります。ネットで調べて分からない情報も多々あるでしょうから、自治会長等のキーパーソンに訊いたりしながら、以下の項目を押さえておきましょう。なお、「地域」のエリア設定は、実施主体において判断されてかまいません。

基礎情報

- ・人口 ・高齢化率 ・主な産業
- ・歴史、ならわし、特徴的な地域事情（例：旧藩の配置等）
- ・過去の災害（歴史をさかのぼっての被災地域の有無）

自治会加入率

防災の 取り組み状況

- ・想定災害（ハザードマップの情報）
- ・防災訓練の状況（訓練の内容、参加者層、人数など）
- ・住民の関心度
（肌感覚でも結構ですが、できればヒアリングなどもすると
よりの確に現状を把握できるでしょう）

地域活動の状況

- ・年間行事の数
- ・年間行事の主な内容
- ・年間行事の特徴（重点テーマやオリジナリティがあれば）
- ・担い手の年代
- ・各種団体の数、責任ある地位にある者（代表者等）
- ・参加者の年代

連携先の機関

（企業、社会福祉施設等）

キーパーソン

（重要な意思決定に関わる人たち）